

平成28～30年度 文部科学省指定教育課程特例校「英語教育」

平成27・28年度 熊本県教育委員会指定

「生きる力」を育む研究指定校事業小学校英語教育研究推進校

人吉市立西瀬小学校 研究発表会

《 研究主題 》

グローバル時代をしなやかに生きる児童の育成 ～コミュニケーション能力の素地を養う授業・環境の創造～

めざす児童像

【低学年】 様々な英語表現や文化にふれ、コミュニケーションを楽しむ子ども

【中学年】 様々な英語表現や文化にふれ、進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども

【高学年】 様々な英語表現や文化にふれ、知的好奇心をもちながら、コミュニケーションを図る子ども

視点1 コミュニケーション能力の 素地を養う中心的指導

- ア 学年の発達段階に応じた英語科・英語活動の指導計画の作成
- イ 学年の発達段階に応じたコミュニケーション場面（言語活動）の設定
- ウ コミュニケーションへの関心・意欲を高める評価の工夫
- エ 英語教育における新教材の効果的な活用
- オ 他教科と英語教育の関連



《 西瀬小学校の研究の基本方針 》 「小学校6年間で自然に英語に慣れ親しませていく」



視点2 コミュニケーション能力の 素地を養う日常的指導

- ア 授業との関連をもたせたイングリッシュ10(5)の充実
- イ 集会活動等をとおした学校総体での英語（言語）環境の充実
- ウ 視覚的に英語や母国語に親しませる校内環境の工夫改善
- エ 互いを受容できる態度を育てる学級経営、学習規律
- オ クラスルーム・イングリッシュをとおした英語があふれる環境づくり



視点3 コミュニケーション能力の 素地を養う関連的指導

- ア 英語教育にかかる幼・保等、小の連携
- イ 中学校英語科とのつながり
- ウ 家庭・地域との連携



【視点1】コミュニケーション能力の素地を養う中心的指導

ア 学年の発達段階に応じた英語科・英語活動の指導計画の作成

	平成27年度	平成28年度
低学年	英語活動 8h + 7h	英語活動 15h
中学年	英語活動 8h + 7h	英語活動 25h
高学年	外国語活動 3.5h + 8h + 7h	英語科 60h

英語教育にかかる時数比較表(下線部は英語集会)

今年度から、文部科学省より教育課程特例校の指定を受け、英語教育に関する時数を本校独自に

設定しました。具体的には、低学年の生活科の一部、中学年の総合的な学習の時間の一部、高学年の外国語活動のすべてと総合的な学習の時間の一部の時数を削減し、低学年、中学年では「英語活動」、高学年では「英語科」を新設しました。各学年の指導計画の作成に当たっては、「Hi,friends!」を基本として内容の充実、計画の作成を行いました。また、文部科学省の教育課程部会(外国語ワーキンググループ)の資料「次期学習指導要領の年間指導計画のイメージ」等を参考に、本校の実態を考慮し題材の配列を行いました。

イ 学年の発達段階に応じたコミュニケーション場面(言語活動)の設定

児童の実態に応じてコミュニケーションの必要感をもつことができるような場面を考え、各单元のActivityとして位置付けました。低学年では「コミュニケーションを楽しむ」、中学年では「コミュニケーションを図ろうとする」、高学年では「コミュニケーションを図る」ことを目指し実践に取り組みました。コミュニケーション場面の設定に当たっては、児童にとって適度なコミュニケーションとなるように留意しています。また、学年が上がるにつれて「ただ楽しむ」ことから、児童が「知的好奇心」をもち「思考しながら」コミュニケーションを図れるような場面設定を考えています。

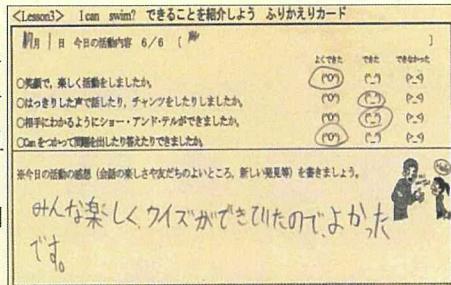


6年生 Who am I? クイズ

ウ コミュニケーションへの関心・意欲を高める評価の工夫



児童のコミュニケーションへの関心・意欲を高めるために、本校では授業の中での言葉かけや振り返りシートを活用しての評価等に取り組んでいます。コミュニケーションのための3 pointsを毎回示し、意識させることで児童が相手意識をもちながらコミュニケーションを図ることができます。また、本時のめあてに対する評価については、教師による観察や振り返りシートの活用を行っています。振り返りシートの活用は、発達段階を考慮し主に4年生以上で行い、単元のはじめと終末、言語・文化に関する気付きを主な評価とする時間等、必要に応じて行っています。



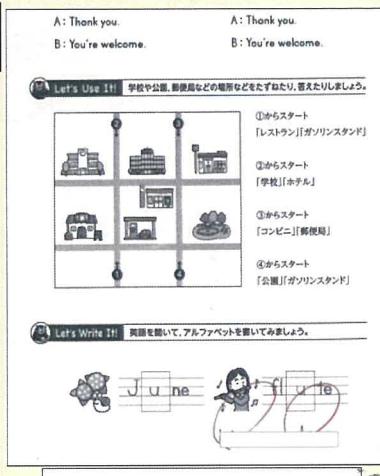
振り返りカード

エ 英語教育における新教材の効果的な活用

オ 他教科と英語教育の関連

高学年では、「I CAN DO IT! Junior」「Hi,friends! Plus」の活用、低学年及び中学年では絵本の活用を始めました。高学年では、各单元の内容と関連のある「I CAN DO IT! Junior」のページや「Hi,friends! Plus」のワークシート等をピックアップし活用しています。「アルファベットを読んでみたい、書いてみたい。」という児童の思いを大切にしつつ、活用の目的を「アルファベットに慣れ親しませながら認識させること」としています。

また、他教科の学習内容を英語活動・英語科の学習内容と関連させて取り扱うことで、児童の学習意欲を高めたり、知的好奇心を刺激したりしながら学習活動を展開することにも少しづつ取り組んでいます。



I CAN DO IT! Junior の活用

Shirasagi Friends
西瀬小英語教育推進キャラクター



【視点2】コミュニケーション能力の素地を養う日常的指導

ア 授業との関連をもたせたイングリッシュ10(5)の充実



昨年度から取り組んでいる朝の時間「イングリッシュ10(5)」は、児童が日々英語に触れ、慣れ親しむことができる時間です。

英語の歌やABC Sound(フォニックス)、Daily Questionに始まり、絵本の読み聞かせやそれぞれの時期に学習している内容と関わりをもたせたチャンツ、簡単なゲーム等を行っています。この時間に歌った英語の歌は、英語集会の中で発表することもあります。朝からたくさんの英語に触れ、英語をたくさん発話することで、西瀬小学校の一日はスタートします。



イングリッシュ10(5)の様子

イ 集会活動等をとおした学校総体での英語(言語)環境の充実



ALTによるクイズ

児童参加型の英語集会(English Festa)では、今年度から発足したB&E(Broadcast & English)委員会の児童が中心となり計画を立て、集会をリードしています。英語の歌やゲームで楽しんだり、文化や行事の体験をしたりしながら、英語に触れることができています。ALTも参加し、全校で絵本の読み聞かせをしたり、英語でのクイズを出題してもらったりしています。また、各学年からの発表では、英語の歌やダンスを披露する等、英語をとおした楽しみ方が広がってきています。今年度は、全10回(ロング6回、ショート4回)を予定しています。



オープニングでの歌とダンス

ウ 視覚的に英語や母国語に親しませる校内環境の工夫改善

児童が日々、英語を目にすることで慣れ親しみをもつことができるよう校内掲示を行っています。その際、児童の負担とならない程度の英語表記、視覚的に意味を捉えやすいようイラストを添える等の工夫を行っています。英語表記を日常生活の中で何気なく目にはすることは、児童の英語の語彙を増やすことにつながるのではと考えています。

また、掲示の一部には英語表記と漢字表記を並べて配置しています。日本語としては少々難解な漢字ですが、英語表記と一緒にすることで児童が母国語に対して興味・関心を新たにもつことができるのではと考えています。

エ 互いを受容できる態度を育てる学級経営、学習規律



英語活動・英語科の学習の中で、コミュニケーションを楽しむためには、児童が互いに受容できる人間関係が必要不可欠です。そのためには日々の学級経営、学習規律を充実させることが大切だと考えています。

児童の悩み等を的確につかむため毎学期「なかよしアンケート」を実施し、児童の個人面談等を行っています。また、「学習の約束」「声の大きさ」等、学習についての指導を共通実践することにより、規律ある学習態度の育成にも力を入れています。

オ クラスルーム・イングリッシュをとおした英語があふれる環境づくり

数多くのクラスルーム・イングリッシュの中から、使用頻度が高いと思われる表現をピックアップし共通実践を図っています。専門的な英語力をもたない教員の発音を心配する声もありますが、西瀬小学校では教員が積極的に英語を使おうとする姿こそ児童にとって最大の教材になると考えています。

また、B&E(Broadcast & English)委員会による日常の放送の中に、英語での放送を取り入れたり、朝や帰りのあいさつ、健康観察などで英語表現を取り入れたりして、慣れ親しんでいるところです。

B butterfly	C coffee	D dandelion
b 蝶	c 咖啡	d 蒲公英
I Italy	J jellyfish	K key
i 伊太利	j 水母	k 鍵
P peach	Q queen	R rose
p 桃	q 女王	r 玫瑰

英語にかかる校内掲示



学習についての教室掲示

Classroom English in Nishi	
A 基本的指示	Look at me. Copy me. Listen carefully. Line up (in a row). Big voice. Go (Get) back to your seat. Open(Close) the windows. Are you ready? Go. Here you are. Raise some groups. Raise your hand. Put your hand down. Finish. (Finished?) Any volunteers?
(1) おはよう。	(2) 先生のまねをなさい。
(3) よく聞けなさい。	(4) 一列、紙に並びなさい。
(5) 大きい声で言なさい。	(6) 座る場所なさい。
(7) 目を開けなさい。(閉めなさい。)	(8) 周囲は、いい? さあ。(いくよ。)
(9) さあ、どうぞ。	(10) グループを作らなさい。
(11) 手を下ろしなさい。	(12) 手を下ろさない。(終わつた?)
(13) 終わりなさい。	(14) 誰か(意見)言ってくれる人?

クラスルーム・イングリッシュ

【視点3】コミュニケーション能力の素地を養う関連的指導

ア 英語教育にかかる幼・保等、小連携



1年生の授業公開

イ 中学校英語科とのつながり



合同研修会の様子

幼・保等、小連携会では、1年生の英語活動の授業を公開し、近隣の幼稚園、保育園等の先生方にも西瀬小学校の取組を実際に見てもらう機会を設けています。

また、昨年度より準備を進めてきた「3小学校合同研修会」を近隣校の協力により開催することができました。同じ中学校へ進学する3つの小学校（人吉西小、西瀬小、中原小）が英語教育に関して足並みを揃え、小学校から中学校へのなめらかな接続を目指すことが最大の目的です。本研修会には、中学校の英語担当の職員にも参加をしてもらい、教材や教具の扱い、教具等に使用するフォントの扱いなどについて意見交換を行ってきました。

今年度はこれまでに2回の合同研修会を開催しました。3学期には本校を会場に第3回目の合同研修会の開催を予定しています。

ウ 家庭・地域との連携

月に一度の自由参観デー（さざなみデー）などの機会に英語活動・英語科の公開を行っています。保護者の方に、実際の授業を見てもらうことで、西瀬小学校の取組について理解を深めていただく機会としています。

学習した内容等は学級通信でもお知らせをしたり、毎月発行の校長室便りの中でも、英語にまつわるコーナーを掲載したりするなど、積極的に英語教育についての啓発を進めています。また、英語集会（English Festa）やさざなみ文化祭等の集会活動を、地域の方も自由に参観できるようにし、西瀬小学校の取組を広く知っていただく機会を設けています。



◇研究の成果と課題◇



学校通信「さざなみ」

○平成27年度から本校の英語教育の研究実践を進めてきたことで、児童・職員ともに英語をより身近に感じることができるようになってきている。授業を核とする中心的指導だけでなく、イングリッシュ10（5）や英語集会（English Festa）等の授業以外の活動、環境づくり等の日常的指導を進めてきた成果であると考えている。

児童の実態調査アンケートでも「英語を使って、友だちや先生と話したり聞いたりするのは好きですか」の設問に対して毎回9割以上の児童が「好き」と回答している。さらに、保護者アンケートでも、本校の英語教育の推進に好意的な意見が多く寄せられており、取組に対する理解も深まってきている。

○全学年で英語教育の時数を確保し、学校をあげて英語教育に取り組んだことで、どの学級でも各担任が主となり英語の授業を展開することが自然な形として定着してきている。また、学習過程を「Hello Time → Warm-Up Time → Activity Time → See You Time」と統一して実践を進めてきたことにより、全学級で英語学習の基本的な形を整えることができ、児童が見通しをもって学習に取り組むことができた。

▲今年度より、高学年では「英語科」としての実践を始め、少しずつ「読むこと」「書くこと」にも取り組み始めたところである。しかし、現行の学習指導要領を基本とした考え方では「読むこと」「書くこと」に対して目標と評価を位置付けることは合致するものではない。「読むこと」「書くこと」をどう位置付けていくかは今後も検討を重ねながら実践していくかねばならない。

▲本校の研修実践も2年目となり、少しずつ積み重ねができてきている。今後は、本校の研究の基本方針である「小学校6年間で自然に英語に慣れ親しませていく」ための取組を将来的に継続させていくための体制を整えていかねばならない。

▲イングリッシュ10（5）をはじめとした授業以外の活動では、児童が英語に慣れ親しむことができる環境が整いつつある。一方で、次期学習指導要領の施行後の英語教育の早期化や教科化を考慮すると授業時数の確保のため、イングリッシュ10（5）の「モジュール化」も検討していかねばならない。